

## 企画展「埼玉生きもの情報 ～最新レッドデータブックの世界～」を終えて

木山 加奈子

### はじめに

今年の夏は、レッドデータブックの企画展を開催しました。なかなか目にするのできない「希少な生きもの」を展示するだけでなく、こうした生きものをとりまく状況が変化していることや、それを把握するために日々の調査が大切だということも盛り込みました。

### 1. レッドデータブックってなんだろう？

レッドデータブック（以下：RDB）とは、絶滅のおそれのある生きものの現状について解説した本です。種ごとに現状を評価し、ランク付けしていることが特徴です。本を開くと、それぞれの生きものがどんな場所にいらして、どのような要因で減ってしまったのかが解説されています。

日本では1991年に初めてのRDBが出版され、その後、自治体レベルでも数多く作られました。埼玉県では、1996年に動物編、1998年に植物編がそれぞれ初めて出版され、現在までに2度改訂されてきました。

### 2. 埼玉で絶滅した生きもの

本展の目玉として、絶滅してしまった生きものの標本を数多く展示しました。博物館の裏側には、何十年も前の、様々な生きものの標本がたくさん収蔵されています。中には、現在は絶滅してしまった生きものも含まれています。その中から、オオイチモンジ、ハッチョウトンボなどの昆虫や、アツモリソウ、カキランなどの植物を中心に紹介しました。



アツモリソウの標本

ちなみに、展示した標本のほとんどは、県内で採取されたものです。こうした標本が、かつて埼玉にその生きものが生きていた確かな証拠になるのです。

### 3. 埼玉で減っている生きもの

ひとくちに「絶滅のおそれがある」といっても、置かれている状況は種によって様々です。今回は以下の2つに分けて紹介しました。

#### ①限られた環境にくらす生きもの

絶滅のおそれのある生きものと聞いてまず思い浮かぶのは、山奥にひっそりくらすものや、ここにしかいない！というものではないでしょうか。

埼玉では、主に県の面積のわずか2%しかない亜高山帯や、資源としても有用なため開発の危機にさらされている石灰岩地の生きものが該当します。亜高山帯のものは県で絶滅危惧種になっていても国レベルではランクがないものも多く、一方、石灰岩地の植物は、国レベルでも高いランクがついているものが多いです。こうして国と県のランクを比較してみると、日本における埼玉の自然の特徴も垣間見えてきます。

#### ②環境の変化で減った生きもの

RDBには、かつてはどこでも見られたような生きものが意外と数多く載っています。秋の七草で有名なキキョウやオミナエシ、埼玉県の花サクラソウなどの湿地の植物、水田で見られたタガメやゲンゴロウなど、みなさんもよく知っている生きものが、生活の変化や開発で続々と絶滅危惧種になっているのです。また、植物の場合は、近年秩父地域で急増しているニホンジカによる食害や、園芸目的の採取などもあります。生きものを脅かす要因は様々で、多くはこれらが組み合わさってダメージを与えています。

### 4. RDBは生きている

生きものを取り巻く状況は日々刻々と変化します。ですから、それを把握するためには日々の地道な調査が大切です。調査を続けていると、絶滅したと思われていたものが見つかったり、新たに県内での生息が確認されたりすることがあります。日々調査を続けていらっしゃる方々とともに、博物館でも、埼玉の自然を調査し続けます！

(きやま かなこ・学芸員)